

## 令和4年度 市議会意見交換会「議員と語っちゃオ！！」記録 ②

日 時 : 令和4年10月12日(水) 午後7時～午後8時30分  
会 場 : 中洲公民館  
参加市民 : 10人  
テ ー マ : 「地域の課題」について  
実施方法 : 市民、議員を3グループに分けて意見交換・懇談後、市民による発表。

### 1 水害について

- 諏訪湖の水位管理に尽きる。
- 市議→県議→県行政へプッシュ。
- 市、県、たらい回しで結論が出ない。
- 県が長期計画により継続的に行う。
- 中小河川の浚渫整備。
- 6市町村がまとまったの治水対策が必要。
- 短時間豪雨による冠水被害。
- 排水ポンプ・ゲートの誤動作。
- ポンプ・ゲートの配線の見直し、点検強化。
- 以前は農地が多かったので大雨が降っても“ため池”の役割を果たしていたが、現在は宅地化されているところが多いため地下浸透していかないし、溜める能力も低くなっている。そのため水害が多く発生しているので対策が必要。
- 水に弱い諏訪地域なので、早めの対応が必要。
- 大雨の時、大正堀から水があふれ道路が冠水する。
- 神宮地区女沢川の土砂堆積改修工事では市の担当と県の担当が分かれていて、市の担当部分は終了しても県の担当部分が終わっていない。連携不足のように感じる。
- 内水氾濫は対策を取れば防げるものも多い。コツコツ対策を進めてほしい。

### 2 「広報すわ」について

- 編集・企画に市民を参画させる。
- 写真を多く。
- 他市の広報の良いところ取り。
- 身近な話題、例えば「この課・この係はこんな仕事をしています、係員はこの人」など。
- “広報すわ”のモニター制度を作り市民の意見を反映する。
- 文字が多すぎる。
- 構成・作りが時代遅れ。市民や専門家の力を入れたらどうか。

### 3 市民の行政に対する不関心

- 不関心による、行政や議員に対する不評。
- 市と市民の間に関係性ができれば、市民の関心が高まるのでは。
- ハードルを低くして、市民に行政が身近であるように感じてもらう工夫(広報やHPなど)。
- 市政モニター創設/発信の工夫。

### 4 デジタル化

- ライン導入は良いが、情報の幅を広げてほしい。  
…例えば、子育てアプリの導入(母子手帳)、予防接種のスケジュール。
- LCVの独自番組制作(塩尻市を参考に)。

## **5 区内行事の今後のあり方について(区の運営について)**

- 今までどおりに行うより、今の時代にあったやり方を考えていく必要がある。
- 多品種少人数参加。
- 区に入らない→メリットがない→コミュニティー崩壊
- 定年延長、高齢化で出払いができない、役員のなり手がいない。

## **6 withコロナについて**

- コロナ禍により住民同士のコミュニケーションが減っている。
- 人とのつながりができるように何とかならないか。
- 政府、行政の決定をもっと早く明確にしてほしい。

## **7 高齢化について**

- 人口減少・高齢化は全国的な問題だが、地区ではこの問題から多くの課題が発生している。
- 地区には高齢者ばかりが残り、役員のなり手がなくなっている。
- 子どもが戻らないため高齢者の独居が多くなり、家の建替えができず、空き家が増えていく。
- 免許証を返納しても生活に支障が出ない移動手段が欲しい。
- 移住政策も大切だが、移住は人が移動するだけなので、子どもが増える政策が必要。
- 地域に子育て世代が増える政策が必要。
- 若者が働ける場所を創り出さないと活気がなくなる。
- 若者が住める市へ、住みたい市へしてほしい。
- 若者や子育て世代に選ばれないまちになっている。
- 教育環境の充実や子育て支援を充実させるべき。
- 支え手を増やしていかななくてはならない。

## **8 道路行政について**

- 宮川八立橋の通行止の情報は、回覧板で示された内容だけでは、その内容が理解できない。丁寧な説明をしてほしい。